

中予地方局産業振興課『普及だより』



平成 29 年 3 月発行

中予地方局産業振興課 〒790-8502 松山市北持田町 132 番地 TEL (089) 909-8761
 伊予農業指導班 〒799-3122 伊予市市場 127 番地 1 TEL (089) 982-0477
 久万高原農業指導班 〒791-1202 上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL (0892) 21-0314

【地域農業情報-1】

雑穀等を活用した地域活性化への取り組み！ ～高原地域固有農産物発掘活用モデル事業～

久万高原農業指導班では、古くから地域で受け継がれている「地とうもろこし」や「雑穀」等の地域固有農産物を発掘・活用し、新たな商品の開発を行うことにより、地域の活性化を図ろうと、平成 26 年度より“高原地域固有農産物発掘活用モデル事業”に取り組んでいます。

◆ 地域固有農産物の発掘

平成 26～27 年度の発掘活動により、75 系統の農産物を収集することができました。

種類	収集数	主な品目
とうもろこし類	15	地とうもろこし、黒もちとうもろこし
雑穀類	13	たかきび、こきび、あわ
大豆類	13	久万大豆、青大豆、黒大豆
その他豆類	26	はなまめ、おごろ落花生
その他	8	地きゅうり、地ばれいしょ



◆ 普及啓発

収集した農産物のうち、商品の原材料として期待できる「こきび」「たかきび」「地とうもろこし」等を指導班の圃場で実証展示栽培したほか、雑穀の機能性や調理方法を学ぶ講演会の開催、町内イベントにおいて栽培の様子をパネル展示する等、普及啓発に努めました。



◆ 新たな商品の開発

生産者や実需者、学識経験者、JA、町、県の関係機関で組織する久万高原地域固有農産物発掘・活用検討委員会を設置し、新たな商品の開発に向け、試作品の作成や消費者試食アンケート等に取り組みました。その結果、町内において地域固有農産物を活用した商品の開発が進み、本年度より、道の駅直売所等で販売されるようになりました。



パンせんべい（雑穀入り）



パスタソース（たかきび入り）



クッキー（地とうもろこし粉入り）



雑穀・豆類の一次加工品等

◆ 地域固有農産物の安定生産

商品開発が進む中、原材料の確保が課題となってきました。そこで、原材料の安定生産を図るため、本年度モデル農家を設置し、こきび、たかきび等の栽培実証を行い、現地での生産性を把握しました。今後は、実証データを基に栽培マニュアルを作成し、栽培講習会の開催等により、地域固有農産物の安定生産を目指します。



【地域農業情報-2】

グリーン・ツーリズム実践者が元気に活動中！！ ～体験メニューも拡充中～

伊予管内では、伊予市と砥部町でグリーン・ツーリズム推進協議会が活動しており、実践者が研鑽や情報交換を重ねて都市住民との交流促進に取り組んでいます。

伊予市は19メニュー、砥部町は10メニューが登録され、新たな体験メニューも続々と登場予定です。2月に行われた「伊予地区農業・生活研究フォーラム2017」ではメンバーである砥部町の三木さんと伊予市の片岡さんが事例発表を行い活動をアピールしました。

◆海の幸も山の幸も。四季の恵みをたっぷり！



砥部町の三木さんは石窯のピザ焼きとフラワーアレンジメントの体験をされています。

手作りの石窯はピザとポトフ料理ができるほか、常連さんの要望からパン焼き用の石窯もできました。

留学生を交え英語しか使っていない料理体験や野草に詳しい大学の先生と近隣を散策しながら野草の勉強とそれを利用したピザなど、お客さんのアイデアからどんどんワクワクする企画ができています。

◆この土地でとれる農産物を本当においしい時に食べてもらいたい！



伊予市の片岡さんは研究に研究を重ね、ブルーベリーを農薬を使わないで栽培しています。量販店で買って食べるものとはひと味違う「農家しか知らない完熟の本当の味」を楽しんでいただきたい。そんな理由から収穫体験が始まりました。

美味しい果実の見分け方を教えてもらい、摘みたてをそのまま頬張るもよし、ジャムやジュースにするもよし。ゼッピンです。ちなみに今は青パイヤも研究中です。

地元のおじさん、おばさんとの会話を楽しみながらの交流は体験のスパイスです。

◆「えひめの真ん中」でワクワクしませんか！？

農水産物収穫体験や料理体験、土や木材でモノをつくったり、いっそのことパラグライダーで大空を飛びますか？友人、ご家族やカップルで訪れてみませんか。あなたの評価が上がること間違いなしです。

果樹に野菜に鱧、じゃこ天、そばに豆腐にみかんにタケノコ。盛りだくさんで迷ってしまいそうですが、体験メニューはこれからも「えひめG Tナビ」www.ehime-gtnavi.jp/やYouTubeでどんどん紹介されます。ぜひお越しください。笑顔でお待ちしています。



いちご狩り



シーサー作り体験



地引網体験



餅づくり体験

【地域農業情報-3】

農業と福祉が連携するための取り組み ～農福連携 両者にとっての架け橋に～

少子・高齢化が進んでいる中、農業分野では労働力不足を補う手段として、障がい者雇用に関心が高まっています。一方で、農業に参入する福祉事業所が増加していますが、専門的な知識や技術がないため、障がい者の就労・自立に繋がっておりません。

そこで中予地方局では、今年度から「農福連携促進モデル事業」を実施し、農業分野への障がい者の就農促進や障がい者施設スタッフの技術力向上支援に取り組みました。

■ 福祉と農業の知識を深めるために

障がい者の雇用を考えている農業者や、農業生産活動に関心のある福祉事業所を対象に、農作業体験や農業技術の基礎研修を行い、お互いの理解促進を図りました。

農作業体験では、実際に障がい者が農業者の畑や樹園地で作業を行いました。



第1回協議会

■ 今後の取り組み

引き続き農業分野での障がい者就農の意識啓発に努めるとともに、障がい者に適した農作業の検証を行い、農業者と障がい者がともに支えあう社会づくりを目指していきます。



農作業マッチング事例(たまねぎの収穫)



事業者スタッフの栽培研修会

【地域農業情報-4】

東温市に新たな集落営農法人設立 ～中山間地域の活性化を目指して～

地域農業室では、高齢化が進み担い手不足と荒廃農地の増加が懸念される中山間地等を中心に、集落営農の組織化や法人化への支援を行っています。このたび、棚田で有名な東温市井内地区に「農事組合法人サンライズいうち」が誕生しました。

■ 集落営農の活性化

井内地区では平成27年に、地域農産物の生産・販売体制整備を担う組織として「井内集落営農会」が設立されました。その後、井内米のブランド化を目指して食味向上やPR活動に努め、さらに持続可能な組織として発展するため、平成29年2月17日、農事組合法人となりました。



井内米をPRする角谷会長

■ 法人が目指す将来

美しい棚田の郷“井内”で芽生えた地域活性化の取り組みを「農の力」で支えていきたいと考えています。

具体的には、井内米の販売力強化とシキミ集出荷体制整備により法人の経営体力を高め、「シキミ専作化」「小作契約・作業受託による耕作放棄地対策」「都市住民との交流活動」を進めていく予定です。



設立総会

【農業技術情報】

「愛媛果試第 28 号」の高品質生産について ～ネック果の抑制は荒摘果で～

■ ネック果の発生

「愛媛果試第 28 号」の施設栽培では、開花期の温度管理等によって果梗部が飛び出るネックの発生が見られ、品質低下の要因となっています。

そこで、幼果期から果実の生育を継時的に調査した結果、写真 1 のように、5 月の幼果の時点でネックの発生が見られた果実は、10 月下旬の収穫時にもネックは消えませんでした。

■ 果形をよく確認してから荒摘果

このため、5 月下旬から 6 月上旬の荒摘果時に、写真 2 の③のような強度のネック果を除去することで、収穫時のネック果を大幅に減少させることができることを確認しました。

大玉果の生産のためには、大きな果実を残すことも大切ですが、ネックの発生果は幼果期の果形に多い傾向がありますので、荒摘果の段階から果形に注意して摘果する必要があります。

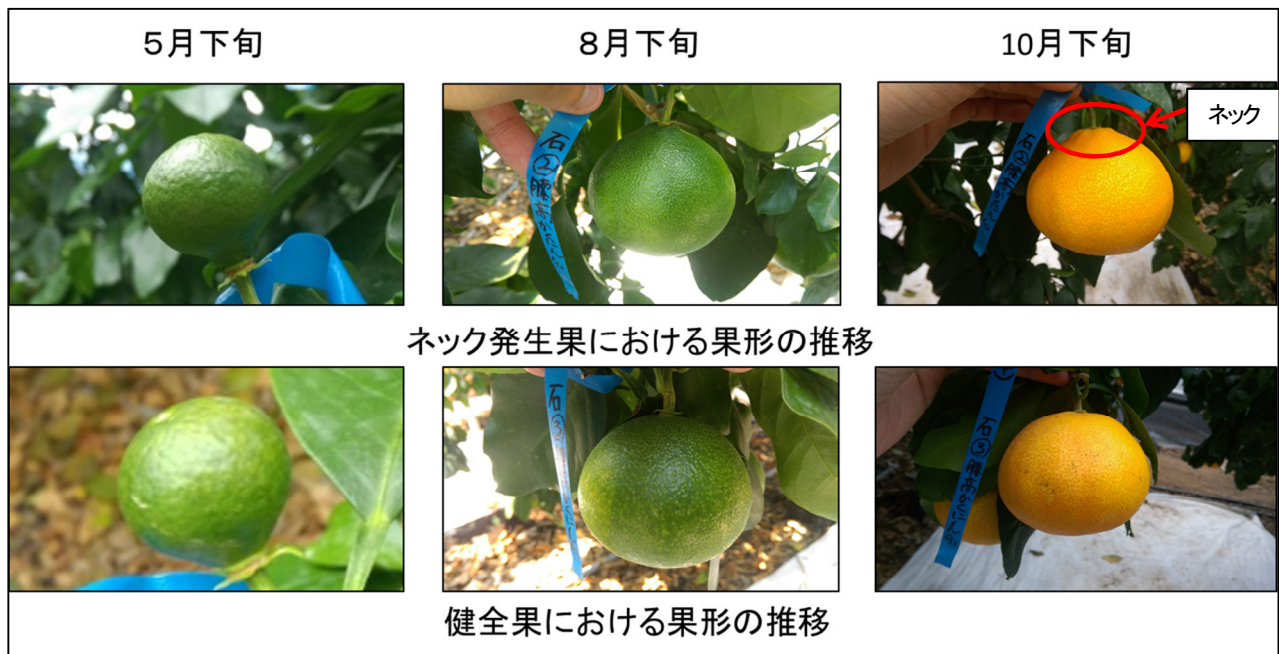


写真 1 「愛媛果試第 28 号」における果形の推移



①ネックのない果実 ②果実の生育に伴い、収穫時にはネックが見られなくなった果実 ③収穫時にもネックが見られる果実

写真 2 荒摘果時にみられる発生程度別のネック果

今年度 表彰を受賞された皆様

おめでとうございます

第 65 回全国農業コンクール全国大会

☆☆☆優秀賞☆☆☆

農事組合法人ななおれ梅組合（組合長：東 洋二）

平成 28 年 6 月 30 日、大阪府大阪市で「第 65 回全国農業コンクール全国大会」が開催され、砥部町の農事組合法人ななおれ梅組合が優秀賞を受賞されました。

当日の大会では、組合を代表して、新規就農した大内祐衣さんが全国 20 代表の一つとして実績発表を行いました。発表後、中央審査委員会による審査が行われ、受賞者が決まりました。

本表彰は、創意工夫を凝らした栽培技術をもとに卓越した農業経営を展開し、地域に大きな影響を与えている先進的、独創的な農業者を顕彰するものです。

当組合は、特産の「七折小梅」の振興のため、様々な活動を展開しています。

組合員の所得確保のため、一粒一粒完熟の梅を手取り収穫するなど、高品質生梅の生産に努め、近隣の市場だけでなく、関東関西圏への販路開拓、材料や製法にこだわった梅干し、シロップ、ゼリーなど組合オリジナル商品の開発、さらに異業種とも連携した商品開発などを手がけています。

また、「七折小梅」のPR・知名度向上のため、地域を挙げた梅まつりを開催し、約 4 万人を集客する他、梅まつりや、初収穫、梅干し作り体験などのトピックをメディアを利用して発信しています。

さらに、高齢化・担い手確保対策として、園内作業道の整備や農繁期における人材確保、子供達への食農教育、就農希望者の研修機関としての受け入れを実施し、新規就農者の確保につなげています。

こうした 100 年後も続く梅産地づくり活動が評価されての受賞で、今後も活躍が期待されます。



大会会場にて(左から大内さん、東組合長、竹内加工部長)



「七折小梅」商品



組合の皆さん

今年度 表彰を受賞された皆様

おめでとうございます

第 46 回日本農業賞

第 46 回日本農業賞の受賞者・団体の発表が、平成 29 年 1 月 31 日、JA 全中（全国農業協同組合中央会）からあり、個人経営の部で砥部町の石田慎一さん（57 歳）が当表彰の最高賞である大賞を、集団組織の部で JA 松山市④久万高原トマト部会が優秀賞を受賞されました。

☆☆☆ 個別経営の部 大賞 ☆☆☆ 石田慎一さん（砥部町）

個人経営の部で大賞を受賞した石田さんは、果樹研究所カンキツ研究興津拠点を終了後に就農し、父親が 65 歳の時に経営移譲を受けました。現在、親子 3 世代で役割分担し、温室みかん 31 a、愛媛果試第 28 号（紅まどんな）施設 22a、せとか 8 a、キウイフルーツ 31 a、不知火他 78 a、合計 1.7 ha の多品目栽培に取り組み、高い生産技術で JA 内トップクラスの秀品率を誇り、収益性の極めて高い果樹経営を実現しています。



「紅まどんな」の剪定作業をする石田さん

今回、労働配分や危険分散を考慮した果樹の多品目・周年出荷による経営改善や、高品質、安定・多収等の高度な栽培技術、さらに、産地のリーダーとしての若い後継者育成や地域への貢献が高く評価されての受賞となりました。今回の受賞について石田さんは、「海岸部よりも条件が厳しい産地で高品質のかんきつ作りに努めてきた。受賞は共に力を合わせてきた家族や地域の仲間と関係機関のおかげ、今後も安定した家族経営で地域農業をリードしたい」と喜びを語りました。



父親と長男の三世代で経営分担

☆☆☆ 集団組織の部 優秀賞 ☆☆☆ JA 松山市④久万高原トマト部会

集団組織の部で優秀賞を受賞した JA 松山市久万高原トマト部会は、高齢化率が 45% と県下で最も進んだ久万高原町において、現在、生産者 98 戸、約 20ha で夏秋トマトを栽培し、部会員の約 2 割が新規就農者で構成されるなど、担い手も確保しながら西日本有数のトマト産地を形成しています。



栽培技術を熱心に研修する生産者の皆さん

また、部会員全員が「エコえひめ」の認証を受け、化学農薬と化学肥料ともに 3 割以上の削減と合わせて、全農安心システム認証とエコファーマーにも取り組み、より安全で安心な夏秋トマトとしてブランドを確立しています。

このように、JA 松山市久万高原トマト部会は、地域や関係機関団体等と一体となり、地域農業の振興と地域活性化に貢献した取り組みが高く評価されての受賞となりました。

今回の受賞を受けて、渡部部会長は、「今後 50 年、60 年と農地を守り、地域農業を発展させたい」と抱負を語りました。



収穫したトマトを手にする渡部部会長

今年度 表彰を受賞された皆様

おめでとうございます

第56回全国青年農業者会議プロジェクト発表

☆☆☆ 農林水産大臣賞 ☆☆☆

青井秀典さん（松山市）

松山市由良で柑橘栽培を行っている青井秀典さんは、全国農業青年クラブ連絡協議会が主催する第56回全国青年農業者会議のプロジェクト発表、園芸・特産作物部門において、かんきつ類の果皮障害低減の取り組みについて発表し、最高位の農林水産大臣賞を受賞されました。

この賞は、全国7ブロックから選出された7課題の中で最も優れた発表に与えられるもので、プロジェクト発表での大臣賞受賞は、平成15年に大臣賞が創設されて以来、県内初の快挙です。

3年前に就農した青井さんは、就農と同時に始めた「愛媛果試第28号」等の施設栽培で「果皮障害」の問題に直面したため、いろいろ調べた結果、その原因として雨よけ施設からの雨漏りや結露水による落水が一因していることを発見しました。

そこで、ハウスのどこから漏水や落水が起こりやすいのかを調べ、その防止技術の開発や作業のしやすさ、費用対効果等を検証し、果実の出荷率が高まりました。また、組織活動を通じて、地域の仲間や他産地の生産者にも普及しています。

このような取り組みが高く評価され、今回の受賞となりました。

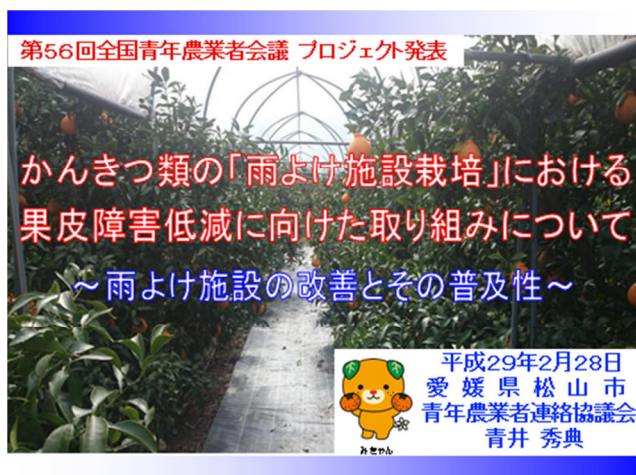
青井さんは、「まだまだ改良するところはあるけれど、この技術を普及して農家所得の向上や新しい生産者の増加に貢献していきたい」と、語ってくれました。



農林大臣賞を受賞した青井氏



経営の主力品種
「愛媛果試第28号」



中国四国ブロックの代表として発表



あぜシートを使った落水防止の技術を紹介

青井さん、このたびの受賞、おめでとうございます。ますますのご活躍を期待しています。